2026 年 9 月 25 日

国際航空専門学校
校長　大森章生　殿

学校関係者評価委員会報告書

学校関係者評価委員会
委員長　岩田高廣

2026 年度学校関係者評価について、下記の通り評価結果を報告致します。

記

1．学校関係者評価委員

出席者：

	氏名	所属
委員長	岩田　高廣	国際航空専門学校　元教務部指定養成施設管理室長
委員	安藤　仁	公益社団法人　日本航空技術協会　業務部長
委員代理	鈴木　秀勝	株式会社 JAL エンジニアリング 総務部　採用グループ
委員	阿部　雄太郎	全日本空輸株式会社　整備センター 業務推進部　マネジャー
委員	塚野　愛	株式会社 JAL グランドサービス　総務部　課長　採用･海外人財支援グループ長
委員	柴﨑　鮎美	ANA エアポートサービス株式会社　人事部　人事課　マネジャー
委員	山﨑　一慶	多摩川エアロシステムズ株式会社　整備部　部長
委員	高田　大介	エアロトヨタ株式会社　航空事業本部　執行職
事務局	大森　章生	国際航空専門学校　校長
事務局	武川　泉	〃　副校長　兼　管理部長
事務局	有海　和寿	〃　教務部長　主席学科教官
事務局	久我　教之	〃　管理部　総務部長
事務局	比企野　和也	〃　管理部　就職指導部長　兼　業務部長
事務局	松島　共史	〃　管理部　業務部　学生募集課長
事務局	髙須　清美	〃　管理部　業務部　学生募集課主任

欠席者：

	氏名	所属
委員	デワルト オイゲン	株式会社 JAL エンジニアリング 総務部　採用グループ長

2．学校関係者評価委員会　開催日

2026 年 8 月 21 日（金）15：00～16：05　　Google Meet 使用によるオンライン会議

3．2026 年度学校関係者評価委員会　評価結果

2025 年度の自己評価は妥当と判断する。詳細は別紙のとおり。

以上

別紙

学校関係者評価委員会の目的

学校関係者評価委員会は、専門学校に求められている「職業実践専門課程」の中に位置しています。「職業実践専門課程」とは、専修学校の専門課程であって、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成することを目的としており文部科学大臣が認定して奨励することにより、専修学校の専門課程における職業教育の水準の維持向上を図ることを目的とするものです。「職業実践専門課程」における教育活動には、企業との連携により実践的な教育課程を編成する教育課程編成委員会、および学校を評価する為の自己評価委員会、本日開催の学校関係者評価委員会があります。

学校評価が適切に行われているか、企業、業界団体等からの委員が適切であるか確認し、学校運営改善、情報の提供を行うことが学校関係者評価委員会の目的です。

議題①　学校運営方針、重点施策

学校運営方針

1. 高度な知識､能力､安全意識を有する航空技術者を育成し、航空の発展に寄与する
2. 健全な事務状況の確保､機材､施設等の確実な維持管理
3. 年度毎重点施策の提示
4. 学生個々の資質に対応した教育等
5. 教職員の知見向上
6. 開かれた学校運営
7. 社会との繋がり

目的を含め 7 項目の中から必要事項を取り上げ、年度初めに校長から重点施策が提示された。

2025 年度重点施策

1. 各学科、コースの改変と教官の確保と資格拡張
2. 入学者数増への改善
3. 各種公的資格の合格率向上
4. 訓練用機材の更新
5. 収支の黒字化と意識改革

以上の重点施策をもとに教育活動を実施した。

議題②　2025 年度自己評価結果の説明、審議

評価項目別取り組み状況

評価の基準は小項目に関する評価の総合判定で中項目、大項目を実施している。

基準１　教育理念・目的・育成人材像

（総括）課題の発見や取り組みに対して積極的に学生・保護者・関連業界等へ発信してきた。今後も SNS 等を通じた発信の機会を増やし、取り組みを分かり易く伝える工夫を継続していく。

基準 1-1-7～8　「教育理念・目的・育成人材像の周知に取り組み、理念等の浸透度を確認しているか」

学生・保護者・関連業界等への周知・確認方法については、期初や期末において学生・保護者との懇談会や学校 HP、パンフレットでの紹介、近年では SNS を通じた当校の取組を紹介する中で、教育理念や育成人材像の浸透を図っており、これらの取組を継続して更なる浸透を進めていく。

基準 2　学校運営

（総括）学校運営に関しての課題は、「５．意思決定システム」について学内全体での取組に不足があった。

基準 2-2-4　「事業計画の執行体制、業務分担等を明確にしているか」

運営会議で組織課題を明確にし、情報共有を強化するため学内ポータルサイトを設置してより迅速な全体共有を図る取り組みを開始した。以前よりも全体共有や組織横断的な協力体制が改善してきている。

今年度は 2 年目となるため昨年度の実績から必要な修正等を実施して、電子化を完結させていく。

基準 3　教育活動

（総括）教育課程について定期的、また随時改定しているが、コロナ禍後の企業採用人数、受託訓練要請の増加及び R7 年度整備士資格制度の航空法改正及び自衛隊退官者の整備士資格取得促進方針に対応することが必要となってきた。

社会のニーズと学生が資格取得だけでなくより整備士として就職後活躍できる能力を得られるような、教育課程を構築する必要がある。

基準 3-2　「教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか」

R8. 4. 1 より本校の指定養成課程の限定変更、課程追加を実施することで対応する。学生が基本・機体審査に対応しやすいように教育時数も変更した。

また、1 年生の規程時数を減らし危険物講習や学科模擬試験等に対応する規程外時数を増加した。

無線・危険物・TOEIC・ドローン・整備士資格等の取得について、教育計画に反映することで取得率の向上を図る。ドローンについては、2026 年度内に二等無人機操縦士の講習機関を取得し内製での養成を行う。

基準 4　学修成果

（総括）学修成果に関しては適切に対応しており、課題の発見や取り組みに対しても積極的に取組んでいる。 旺盛な航空需要の拡大に伴い、航空関連企業の募集状況も改善してきており、就職率 100%第 1 希望就職先への就職率も 87%となった。また、今年度も企業等と共催を図り説明会を 60 社実施する事が出来た。

基準 4-2-2　「特別講座、セミナーの開講等授業を補完する学習支援の取り組みはあるか」

外部講師を呼んで勉強会を実施出来ているが、一部の資格取得についてはまだまだ努力する必要がある。

基準５　学生支援

（総括）学生支援全般については適切に対応しており、保護者との連携を密に取るなど積極的な対応を図っている。結果として中途退学者は増えたものの、概ね順調に推移することが出来た。

基準 5-2　「退学者の低減が図られているか」
2024 年度の中途退学者 8 名、転科希望者 4 名から、2025 年度は中途退学者は 10 名、転科希望者 2 名と、生徒数の増加に伴い中途退学者は増加した。（中中途退学率 4.47%　※参考：全国の専門学校中途退学率 6.05%）

基準 5-3　「学生相談に関する体制を整備しているか」
相談件数は 4 名の 4 件で進路、学校生活についての相談が多かった。2024 年度下期より、学生が相談しやすいように QR コードからカウンセリング申込が出来るポスターを作成し学校内に掲示した。

基準 5-4　「学生の経済的側面に対する 支援体制を整備しているか」
学費の一部を無利子貸与する奨学金「航空整備士育成支援プログラム」を 2024 年度入学者から開始。2025 年度入学利用者 15 名、2026 年度入学利用者 16 名。

基準 5-6-2　「再就職、キャリアアップ等について卒後の相談に適切に対応しているか」
2025 年度は卒業生 3 名の再就職相談に対応した。

基準６　教育環境

（総括）教育環境については概ね適切に対応しており、課題が発見されれば積極的な対応に努めている。大きな問題はない。

基準７　学生の募集と受入れ

（総括）2025 年度はパンフレット、ホームページの見直し、SNS を含めた広報媒体の運用強化、募集活動のデータベース化の推進を継続した。また、航空業界に興味を持っている生徒と対面で接触できる高校ガイダンスに積極的に参加し、オープンキャンパス、企業見学会への参加を促した。その結果、2025 年度入学者 113 名に対し、2026 年度入学者は 121 名となり 2025 年度対比で 107.1%となった。

基準８　財務

（総括）年度予算を策定するにあたり、費用発生の時期や金額、予算化が必要な理由について教育現場の担当者にヒアリングを行い情報共有した。完成した予算は教職員全体で共有し、目標とする財務状態にするために意識するべき事項を説明した。

基準 8-1-2　「財務基盤において収入と支出のバランスがとれているか」
収入においては、学生募集のために実施した活動の効果を振り返り、次の実行に活かした。支出においては、予算執行時に費用項目の必要性を再検証し、相見積もりの実施を継続した。

基準 9　法令順守

（総括）法令の遵守に関する取組みは概ね実施されており、大きな問題は起こっていないが一部において事象が発生した。

基準 9-1-3　「セクシュアルハラスメント等の防止のための方針を明確化し、対応マニュアルを策定して適切に運用しているか」
ハラスメントに関する規程を整理し、教職員に対する研修（意見交換）を、引き続き実施していく。

基準 10　社会貢献・地域貢献

（総括）社会貢献・地域貢献に関しては適切に対応しており、各取組みを積極的に行っている。

基準 10-1　「学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか」
所沢市からの協力要請によりイタリアから訪問団を迎え、授業体験と日本文化を紹介した。また、近隣中学生の職場体験を実施し、SDGS ポスター展覧会にも参加した。

基準 10-2　「学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか」
献血活動、通学路の清掃活動を実施した。

2025 年度重点目標達成についての自己評価

1. 航空整備士資格取得クラス、資格取得 100%を目標とする。
   100%達成したが再審査が若干いた。
2. エアロサポート科、特殊車両実習合格率 80%以上を目標とする。
   96%で目標を達成した。
3. 学生募集活動、入学者数 110 名を目標とする。
   121 名で目標を達成した。
4. 乙種第 4 類危険物取扱者、初回合格者（1 年次）40%を目標とする。
   21%で目標は下回ったが共有化された教育コンテンツを有効活用し目標達成を目指す。
5. TOEIC SCORE
   ・整備科　470 点　・ビジネス科　550 点　・エアロ科　400 点（2 年次）を目標とする。
   学科ごとの目標点数に届いていないが地道に上昇しており成果は出ている。
6. 第一希望就職先への内定率 85%以上を目標とする。
   87%で目標を達成した。

議題③　2026 年度教育計画について

2026 年度重点施策

大きな変化はないが、施設設備の老朽化に対し長期計画で対応する。また、ドローンパイロットの養成を内製化し推進する。

2026 年度教育単位計画

時間でやっていたものを単位に変更した。内容に変更無し。

【質疑応答・ご意見】

安藤　様：（質問）
卒業生３名の再就職の相談内容について教えて下さい。
学校：（回答）
転職先を学校に確認に来たので前担任が対応した。
安藤　様：（ご意見）
１回断念した人がもう一度航空業界に就く仕組みがあればと思っていたので、学校として面倒みていただけるのは良い活動だと思います。企業によって育て方も違う為、他にいけるチャンスがあるのは良いと思います。

阿部　様：（質問）
年間行事のオリジナルが出来る段階で頂きたい。年度初めに頂けるか。
学校：（回答）
可能です。人の控除に関わるところは早めに発信します。

山﨑　様：（ご意見）
弊社で中古の機体を取り扱っている協力会社がある。機体の要望をいただければお手伝いが可能です。
学校：（回答）
ありがたいお話に感謝します。整備科学科長から必要に応じて連絡致します。

柴﨑　様：（ご意見）
オープンキャンパスを含めた募集活動は弊社としても出来る限り協力したのでお声をかけて下さい。学生の英語力アップは是非ともお願い致します。

塚野　様：（ご意見）
学生へのサポートや重点施策等しっかり取り組まれている。弊社としても協力致しますので引き続き宜しくお願い致します。

【岩田委員長挨拶】

重点目標の達成状況も良くかなり取り組みを進められたと思います。本日はお忙しい中ありがとうございました。

実施方法、公表

学校関係者評価の実施にあたっては、学校関係者評価委員の皆様に「2025 年度自己評価報告書」の結果について事務局より説明し、評価結果に対する意見を頂いた。
頂いた意見は、本報告書として取りまとめ、今後の教育活動や学校運営の改善に活かし、教育水準の向上に努めることとし、ホームページ等で公表する。

以上